

平成31年度シラバス（世界史A）

学番 中等1

新潟県立村上中等教育学校

教科（科目）	地理歴史（世界史A）	単位数	2	学年（系）	4 学年
使用教科書	明解 世界史A（帝国書院）				
副教材等	グローバルワイド最新世界史図表（第一学習社） 世界史B用語集（山川出版社） 世界史Bマスター問題集（山川出版社）				

1 学習目標

近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 指導の重点

基礎事項の定着とともに、科目への興味・関心を高めながら、地理歴史の導入科目として広い視野を育む。

3 指導計画

月	単元名	教材	学習活動（指導内容）	時間	備考
4	前近代の諸文明	P 6～59	・人類の始まり ・東アジアの文明 ・南アジアの文明 ・東南アジアの文明 ・西アジア、北アフリカの文明 ・ヨーロッパの文明 ・南北アメリカの文明 ・ユーラシアの交流圏	6	
5	一体化に向かう世界	P 60～95	・繁栄するアジア ・大航海時代と新たな国家の形成	7	
6	欧米の工業化とアジア諸国の動揺	P 96～115	・ヨーロッパとアメリカの諸革命	7	中間考査
7	欧米の工業化とアジア諸国の動揺	P 116～129	・自由主義、ナショナリズムの進展	7	
9	欧米の工業化とアジア諸国の動揺	P 130～147	・アジア諸国の動揺 ・東アジアの大変動	7	期末考査
10	現在社会の芽生えと世界大戦	P 148～155	・現在につながる社会の形成	7	
11	現在社会の芽生えと世界大戦	P 156～175	・第一次世界大戦がもたらしたもの ・民族自決を求めて	7	中間考査
12	現在社会の芽生えと世界大戦	P 176～187	・経済危機から第二次世界大戦へ	6	
1	冷戦から地球社会へ	P 188～209	・冷たい戦争の時代 ・冷戦終結への道のり	7	
2	冷戦から地球社会へ	P 210～217	・地球社会への歩み	6	
3	冷戦から地球社会へ	P 218～ P 223	・持続可能な社会をめざして	6	中間考査

計 73 時間（48分授業）

4 課題・提出物等

世界史Bマスター問題集、復習プリント

## 5 評価規準と評価方法

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解	評価規準
近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	<評定> 各観点の合計点達成率 5…80%以上 4…70%以上 3…50%以上 2…40%以上 1…40%未満
以上の観点を踏まえ、授業への取り組み（授業態度、学習活動への参加状況）、定期考査、小テスト、課題への取り組むなどから総合的に評価します。				

## 6 担当者からの一言

グローバル化が進んでいる現在では、国際社会と日本の関係を知ることは必須の教養です。しっかりと勉強しましょう。

平成31年度シラバス（公民）

学番 中等1 新潟県立村上中等教育学校

教科（科目）	公民（現代社会）	単位数	2	学年（系）	4 学年
使用教科書	現代社会（東京書籍）				
副教材等	フォーラム現代社会（とうほう）				

1 学習目標

人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 指導の重点

社会の主体的な形成者として、社会の在り方について考察するための基本的な枠組みを学び、人間としての在り方生き方にかかわる問題について議論したり考えたりして、その自覚を一層深める。

3 指導計画

月	単元名	教材	学習活動（指導内容）	時間	備考
4	1 わたしたちの生きる社会	教科書 副教材	①地球環境、②科学技術の発達、③情報化	6	
5	1 現代社会と青年の生き方 2 よりよく生きることを求めて		①青年期、②自己形成と社会 ①哲学と人間、②人間の尊厳、③日本の伝統思想、④外来思想の受容	7	
6	1 民主政治とは 2 日本国憲法と基本的人権		①民主政治、②世界の政治体制 ①日本国憲法と三原則、②基本的人権、③平和主義	7	定期考査
7	3 日本の政治機構 4 政治参加と民主政治 1 個人の尊重と法の支配		①国会と立法、②内閣と行政、③裁判所と司法 ④地方自治 ①選挙のしくみ、②政党 ①法の支配と人権	7	
9	1 個人の尊重と法の支配 1 経済の仕組み		②司法と人権 ①市場経済のしくみ、②金融、③財政	7	定期考査
10	2 変化する日本経済		①高度経済成長、②バブル経済、③中小企業と農業	7	
11	3 豊かな生活の実現		①消費者、②労働者、③雇用・労働問題、④社会保障	7	定期考査
12	1 国際経済のしくみと動向		①貿易と国際分業、②外国為替のしくみと国際収支、③対立と協調の時代	6	
1	2 国際政治の仕組みと動向		①国際紛争を避けるしくみ、②国際連合、③核兵器と軍縮	7	
2	3 国際社会の成立と戦後の動き		①地域経済統合、②南北問題、③民族問題と紛争	6	定期考査
3	1 とともに生きる社会をめざして		テーマを設定して探求し、発表する。	6	

計 73 時間（48分授業）

#### 4 課題・提出物等

授業中のワークシート、週末課題

#### 5 評価規準と評価方法

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解	評価規準
現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考察しようとする態度と平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄から課題を見いだし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用して学び方を身に付けている。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方に関わる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。	<評定> 各観点の合計点達成率 5…80%以上 4…70%以上 3…50%以上 2…40%以上 1…40%未満
以上4つの観点を踏まえ、定期考査を中心に、確認小テストや、レポート及び発表内容などから総合的に判断し、評価する。				

#### 6 担当者からの一言

現代社会のさまざまな現象や課題を学び、そして高校で学ぶ公民科の倫理と政治・経済の基本的内容を学習します。学習する内容は、社会の中で生活していく上で、とても大切なことです。新聞やテレビのニュースを見てことで、興味や関心が高まり理解力も高まります。

教科（科目）	地理歴史（日本史）	単位数	4	学年（系）	5学年（文系）
使用教科書	詳説日本史改訂版（山川出版社）				
副教材等	最新日本史図表（第一学習社）				

## 1 学習目標

我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

## 2 指導の重点

我が国の歴史の展開について世界史的視野に立って各時代の特色及び変遷を総合的に考察させ、発表や学びあいなどの活動を通じて、我が国の伝統と文化についての認識を深める。

## 3 指導計画

月	単元名	教材	学習活動（指導内容）	時間	備考
4	日本文化のあけぼの 1 文化のはじまり 2 農耕社会の成立 3 古墳とヤマト政権  律令国家の形成 1 飛鳥の朝廷 2 律令国家への道	P4～44	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本列島と日本人</li> <li>・旧石器時代人の生活</li> <li>・縄文文化の成立</li> <li>・縄文人の生活と信仰</li> <li>・弥生文化の成立</li> <li>・弥生人の生活</li> <li>・小国の分立</li> <li>・邪馬台国連合</li> <li>・古墳の出現とヤマト政権</li> <li>・前期・中期の古墳</li> <li>・東アジア諸国との交渉</li> <li>・大陸文化の受容</li> <li>・古墳文化の変化</li> <li>・古墳時代の終末</li> <li>・ヤマト政権と政治制度</li> <li>・東アジアの動向とヤマト政権の発展</li> <li>・飛鳥の朝廷と文化</li> <li>・大化改新</li> <li>・律令国家</li> <li>・白鳳文化</li> <li>・大宝律令と官僚制</li> <li>・民衆の負担</li> </ul>	13	
5	3 平城京の時代 4 天平文化 5 平安朝廷の形成  貴族政治と国風文化 1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治と武士	P44～84	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遣唐使</li> <li>・奈良の都平城京</li> <li>・藤原氏の進出と政界の動揺</li> <li>・民衆と土地政策</li> <li>・天平文化と大陸</li> <li>・国史編纂と『万葉集』</li> <li>・国家仏教の展開</li> <li>・天平の美術</li> <li>・平安遷都と蝦夷との戦い</li> <li>・平安初期の政治改革</li> <li>・地方と貴族社会の変貌</li> <li>・唐風文化と平安仏教</li> <li>・密教芸術</li> <li>・藤原氏北家の発展</li> <li>・摂関政治</li> <li>・国際関係の変化</li> <li>・国文学の発達</li> <li>・浄土の信仰</li> <li>・国風美術</li> <li>・貴族の生活</li> <li>・荘園の発達</li> <li>・地方の反乱と武士の成長</li> <li>・源氏の進出</li> </ul>	13	
6	中世社会の成立 1 院政と平氏の台頭 2 鎌倉幕府の成立 3 武士の社会 4 蒙古襲来 5 鎌倉文化  武家社会の成長 1 室町幕府の成立	P85～119	<ul style="list-style-type: none"> <li>・延久の荘園整理令と荘園公領制</li> <li>・院政の開始</li> <li>・院政期の社会</li> <li>・保元・平治の乱</li> <li>・平氏政権</li> <li>・院政期の文化</li> <li>・源平の争乱</li> <li>・鎌倉幕府</li> <li>・幕府と朝廷</li> <li>・北条氏の台頭</li> <li>・承久の乱</li> <li>・執権政治</li> <li>・武士の生活</li> <li>・武士の土地支配</li> <li>・蒙古襲来</li> <li>・蒙古襲来後の政治</li> <li>・琉球とアイヌの動き</li> <li>・幕府の衰亡</li> <li>・鎌倉文化</li> <li>・鎌倉仏教</li> <li>・中世文学のおこり</li> <li>・芸術の新傾向</li> <li>・鎌倉幕府の滅亡</li> <li>・建武の新政</li> <li>・南北朝の</li> </ul>	14	中間考査

			動乱 ・守護大名と国人一揆		
7	2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場  幕藩体制の確立 1 織豊政権	P120～164	・室町幕府 ・幕府の動揺と応仁の乱 ・惣村の形成と土一揆 ・農業の発達 ・商工業の発達 ・東アジアとの交易 ・琉球と蝦夷ヶ島 ・室町文化 ・南北朝文化 ・北山文化 ・東山文化 ・庶民文芸の流行 ・新仏教の発展 ・ヨーロッパ人の東アジア進出 ・南蛮貿易とキリスト教 ・織田信長の統一事業 ・豊臣秀吉の全国統一 ・検地と刀狩 ・秀吉の対外政策	13	
9	2 桃山文化 3 幕藩体制の成立 4 幕藩社会の構造  幕藩体制の展開 1 幕政の安定	P165～202	・桃山文化 ・桃山美術 ・町衆の生活 ・南蛮文化 ・江戸幕府の成立 ・幕藩体制 ・幕府と藩の機構 ・朝廷と寺社 ・村と百姓 ・町と町人 ・身分秩序 ・初期の外交 ・鎖国政策 ・長崎貿易 ・朝鮮と琉球・蝦夷地 ・寛永期の文化  ・平和と秩序の確立 ・元禄時代 ・正徳の政治	14	期末考査
10	2 経済の発展 3 元禄文化  幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化	P202～249	・農業生産の進展 ・諸産業の発達 ・交通の整備 ・貨幣と金融 ・三都の発達 ・元禄文化 ・元禄期の文学 ・儒学の興隆 ・諸学問の発達 ・元禄美術 ・享保の改革 ・社会の変容 ・一揆と打ちこわし ・田沼時代 ・寛政の改革 ・洋学の始まり ・国学の発達 ・儒学と教育 ・文化・文政時代 ・大塩の乱 ・天保の改革 ・経済の近代化 ・雄藩のおこり ・化政文化 ・化政文学 ・洋学の発達 ・政治・社会思想の発達 ・化政美術 ・生活と信仰	14	
11	近代国家の成立 1 開国と幕末の動乱 2 明治維新と富国強兵 3 立憲国家の成立と日清戦争 4 日露戦争と国際関係	P250～299	・開港と影響 ・公武合体と尊攘運動 ・倒幕運動の展開 ・幕府の滅亡 ・戊辰戦争 ・廃藩置県 ・四民平等 ・地租改正 ・殖産興業 ・文明開化 ・自由民権運動 ・松方財政 ・憲法の制定 ・初期議会 ・条約改正 ・朝鮮問題 ・日清戦争と三国干渉 ・立憲政友会の成立 ・中国分割と日英同盟 ・日露戦争 ・桂園時代	14	中間考査
12	5 近代産業の発展 6 近代文化の発達  二つの世界大戦とアジア 1 第一次世界大戦と日本 2 ワシントン体制	P299～333	・産業革命 ・紡績・製糸・鉄道 ・明治の文化 ・明治の芸術  ・大正政変 ・第一次世界大戦 ・大戦景気 ・政党内閣の成立 ・パリ講和会議 ・ワシントン会議と協調外交 ・普選運動 ・護憲三派内閣の成立	13	
1	3 市民生活の変容と大衆文化 4 恐慌の時代	P333～378	・都市化の進展と市民生活 ・大衆文化の誕生 ・戦後恐慌から金融恐慌へ ・金解禁と世界恐慌 ・満州事変 ・国際連盟からの脱退 ・二	13	

5 6	軍部の台頭 第二次世界大戦  占領下の日本 1 占領と改革		・二六事件 ・日中戦争 ・第二次世界大戦の勃発 ・新体制と三国同盟 ・太平洋戦争  ・国民生活の崩壊 ・敗戦 ・戦後世界秩序の形成 ・日本国憲法の制定		
2	2 冷戦の開始と講和  高度成長の時代 1 55年体制 2 経済復興から高度成長へ  激動する世界と日本 1 経済大国への道 2 冷戦終結と日本社会の動揺	P 379～415	・冷戦体制の形成と東アジア ・朝鮮戦争と日本 ・講和と安保条約 ・冷戦構造の世界  ・55年体制の成立 ・安保条約の改定 ・朝鮮特需と経済復興 ・高度経済成長 ・ドル危機と石油危機  ・経済大国の実現 ・バブル経済と市民生活 ・55年体制の崩壊 ・日本社会の混迷と諸課題	13	期末考査
3	歴史の論述	P 416～417	・課題の設定 ・課題の探求 I～III ・課題の論述	12	

計146時間 (48分授業)

#### 4 課題・提出物等

問題集、復習プリント

#### 5 評価規準と評価方法

関心・意欲・態度	思考・表現・判断	資料技能の活用	知識・理解	評価規準
我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。	<評定> 各観点の合計点達成率 5…80%以上 4…70%以上 3…50%以上 2…40%以上 1…40%未満
以上4つの観点を踏まえ、定期考査を中心に、確認小テストや、レポート及び発表内容などから総合的に判断し、評価する。				

#### 6 担当者からの一言

国際社会が進むなかで自国の歴史を知ることが必須の教養です。しっかりと頑張りましょう。

平成31年度シラバス（地歴）

学番 中等1 新潟県立村上中等教育学校

教科（科目）	地理歴史（地理B）	単位数	4	学年（系）	5学年（理系）
使用教科書	新詳地理B（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）				
副教材等	新編地理資料2019（とうほう）、地理力UPノート23（数研出版） 地理用語集（山川出版社）、データブックオブザワールド2019（二宮書店）				

1 学習目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 指導の重点

進学希望の生徒がほとんどを占め、ほぼ全員が大学入試センター試験を受験することから、地理的な意欲関心を高め総合的な学力をつける。

3 指導計画

月	単元名	教材	学習活動（指導内容）	時間	備考
4	地理情報と地図 1 現代世界の地図 2 地図の世界とその利用 3 地理情報の地図化  地図の活用と地域調査 自然環境 1 世界の地形	教科書 副教材	・現代の地図 ・身近な地図 ・世界観の変化 ・地球儀 ・地図の種類とさまざまな図法 ・時差のしくみ ・地理情報とは何か ・一般図と主題図 ・統計地図 ・課題設定、予備調査、野外調査、補充調査 ・調査内容の分析  ・大地形 ・小地形 ・その他の地形	12	
5	2 世界の気候 3 日本の自然の特徴と人々の生活 4 環境問題		・気候の成り立ち ・世界の気候区分 ・植生と土壌 ・日本の地形 ・日本の気候 ・日本の自然災害と防災 ・世界の環境問題 ・さまざまな環境問題 ・日本の環境問題	14	
6	資源と産業 1 産業の発達と変化 2 世界の農林水産業 3 食料問題 4 世界のエネルギー ・鉱産資源		・産業の発達と社会の発展 ・農業の発達と分布 ・世界の農業区分 ・現代世界の農業の現状と課題 ・世界の林業 ・水産業 ・日本の農林水産業 ・世界の食料問題 ・さまざまな食料問題 ・日本の食料問題 ・エネルギー資源の利用と分布 ・鉱産資源の分布	17	定期考査
7	5 資源・エネルギー問題 6 世界の工業 7 第3次産業		・現代世界の資源・ エネルギー問題 ・さまざまな資源 ・エネルギー問題 ・日本の資源 ・エネルギー問題 ・工業の発達と立地 ・世界の工業地域 ・現代世界の工業の現状と課題 ・日本の工業 ・第3次産業の発展 ・世界の観光業	13	
8	8 世界を結ぶ交通・通信		・世界の交通網 ・情報と通信	2	

	9 現代世界の貿易と経済圏		・私たちの生活を支える貿易 ・現代世界の貿易の現状と課題 ・日本の貿易の現状と課題	16	定期考査
9	人口、村落・都市 1 世界の人口 2 人口問題		・世界の人口分布 ・世界の人口増加 ・人口の構成と転換 ・国際的な人口移動 世界の人口問題 ・発展途上国の人口問題 ・先進国の人口問題 ・日本の人口問題		
10	3 村落と都市 4 都市・居住問題		・集落の成り立ち ・村落の形態と機能 ・都市の機能と生活 ・日本の都市 ・世界の都市 ・居住問題 ・日本の都市 ・居住問題	16	
11	生活文化、民族・宗教 1 生活文化 2 民族と宗教 3 現代世界の国家 4 民族・領土問題  現代世界の地域区分 1 地域区分とは何か 2 地域区分のさまざまなスケール  現代世界の諸地域 1 地誌の考察方法		・生活文化の地域的差異 ・生活文化の世界的な画一化 ・日本の生活文化 ・世界の民族 ・言語 ・世界の宗教 ・国家と領域 ・さまざまな国境 ・国家と主権 ・さまざまな国家 ・世界の民族、領土問題 ・民族、領土からとらえた日本 ・民族と宗教の共生に向けての課題 ・民族、領土問題と国連  ・地域区分とは何か ・地域区分のさまざまなスケール  ・地誌の考察方法	16	定期考査
12	2 東アジア		・変化に富んだ地形と気候 ・多くの民族と人口を抱える中国 ・中国の食生活と農業の変化 ・中国の工業化と経済発展 ・今後の中国の動向と日本 ・朝鮮半島の成り立ち ・韓国の産業の発展と変化 ・隣国との交流と今後の動向	12	
1	3 東南アジア		・モンスーンの影響を受ける自然 ・東南アジアの歴史と多様性に富む文化、民族 ・東南アジアの農業とその変化 ・ASEANの結成と工業の発展 ・ASEAN諸国の変化と諸課題	12	
2	4 南アジア		・三つに分けられる地形とモンスーンの影響 ・南アジアの歩みとヒンドゥー教 ・インドの農業と農村の変化 ・発展するインドの工業、IT産業	12	定期考査
3	5 西アジアと中央アジア		・乾燥する大地が広がる二つの地域の自然 ・イスラームを中心とした生活文化 ・交易を軸に発達した都市 ・恵まれた資源と産業	8	

計150時間 (48分授業)

#### 4 課題・提出物等

- ・週末課題・朝テストがあります。
- ・授業中にも課題や作業・グループ活動があります。

## 5 評価規準と評価方法

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料技能の活用	知識・理解	評価規準
現代社会の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求し、国際社会に生きる日本国民としての責任を果たそうとしている。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景をふまえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身につけている。	<評定> 各観点の合計点達成率 5…80%以上 4…70%以上 3…50%以上 2…40%以上 1…40%未満
以上の観点を踏まえ、授業への取り組み（授業態度、学習活動への参加状況）、課題の提出状況、朝テスト、出席状況などから総合的に評価します。				

## 6 担当者からの一言

地理では、どこに何があるのか、そしてどうしてそこにあるのかを学びます。世界地理が中心ですが、日本や地域の特性についても学んでいきます。地理は、地域を理解するために、理系から文系を含んだ学際的な科目で、資料の判読も多くなります。5年次では、系統地理を中心に学習していきます。

平成31年度シラバス（地理歴史）

学番 中等1 新潟県立村上中等教育学校

教科（科目）	地理歴史（地理B）	単位数	3	学年（系）	6年（理系必修）
使用教科書	新詳地理B（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）				
副教材等	新編地理資料2018（とうほう）、地理力UPノート23（数研出版） 地理用語集（山川出版社）、データブックオブザワールド2018（二宮書店） 進研WINSTEP（ラーンズ）				

1 学習目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 指導の重点

進学希望の生徒がほとんどを占め、ほぼ全員が大学入試センター試験を受験することから、地理的な意欲関心を高め総合的な学力をつける。

3 指導計画

月	単元名	教材	学習活動（指導内容）	時間	備考
4	6 現代世界の諸地域 北アフリカとサハラ以南のアフリカ	P 266～272	<ul style="list-style-type: none"> <li>赤道を軸に南北で対照的な二つの地域の気候と植生</li> <li>歴史的な背景によって形成された多様な文化</li> <li>一次産品への依存が強い産業</li> <li>人々の生活の変化と他地域との結びつき</li> </ul>	12	
5	7 ヨーロッパ	P 273～283	<ul style="list-style-type: none"> <li>高緯度でも温暖な気候と安定した大地</li> <li>ヨーロッパの成り立ち</li> <li>結びつくヨーロッパ</li> <li>ヨーロッパの多様な農業と共通農業政策</li> <li>移り変わるヨーロッパの工業</li> <li>これからのヨーロッパ</li> </ul>	12	
6	8 ロシア	P 284～288	<ul style="list-style-type: none"> <li>広大な国土と多様な自然環境</li> <li>ロシアの歴史と社会の変化</li> <li>大きく変化したロシアの産業</li> <li>極東ロシアと日本の結びつき</li> </ul>	12	中間
7	9 アングロアメリカ	P 289～301	<ul style="list-style-type: none"> <li>南北と東西で異なる自然環境</li> <li>移民国家としてのアメリカ合衆国の発展</li> <li>アメリカ合衆国の人口と都市</li> <li>世界の農業のかぎをにぎるアメリカ合衆国</li> <li>進展する科学技術と産業</li> <li>世界の中のアメリカ合衆国</li> <li>アメリカ合衆国との結びつきが強いカナダ</li> </ul>	12	
9	10 ラテンアメリカ	P 302～309	<ul style="list-style-type: none"> <li>南北と標高で異なる自然環境</li> <li>ヨーロッパ社会の影響が強い文化</li> <li>大土地所有制と農業の変化</li> <li>鉱産資源を基盤とした工業化と生活の変化</li> </ul>	12	期末
10	11 オセアニア	P 310～317	<ul style="list-style-type: none"> <li>一つの大陸と太平洋の島々</li> <li>オセアニアの移民の歴史と多文化社会</li> </ul>	12	

			<ul style="list-style-type: none"> <li>モノや人の移動で強まるアジアとの結びつき</li> <li>資源を通じて強まるアジア諸国との結びつき</li> <li>アジア諸国に輸出される農畜産物</li> </ul>		
11	現代世界と日本	P 318～323	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代世界と日本</li> </ul>	12	中間
12	テーマ学習		<ul style="list-style-type: none"> <li>各国地誌、総合演習</li> </ul>	12	
1 2 3	テーマ学習		<ul style="list-style-type: none"> <li>各国地誌、総合演習</li> </ul>	14	

計110時間 (48分授業)

#### 4 課題・提出物等

授業時に随時実施するワークシートやプリント・週末課題・地理力アップノート

#### 5 評価規準と評価方法

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解	評価規準
現代社会の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求し、国際社会に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統的に考察したり、歴史的背景をふまえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身につけている。	<評定> 各観点の合計点達成率 5…80%以上 4…70%以上 3…50%以上 2…40%以上 1…40%未満
以上の観点を踏まえ、授業への取り組み（授業態度、学習活動への参加状況）、課題の提出状況、朝テスト、出席状況などから総合的に評価します。				

#### 6 担当者からの一言

5年次の系統地理の学習をふまえ、6年次は地誌中心に学習します。その地域に何があるのか、なぜその地域にあるのかを考察し地域の特徴を学んでいきます。  
後半は、演習中心になります。